

# カミポイント

公共交通を軸に、  
KAMIICHI POINTで若者が循環  
するまちをつくろう。



# 目次

- 1 背景と目的
- 2 企画のコンセプト
- 3 ポイント獲得方法
- 4 ポイントの使い方
- 5 イベント
- 6 期待される効果

“

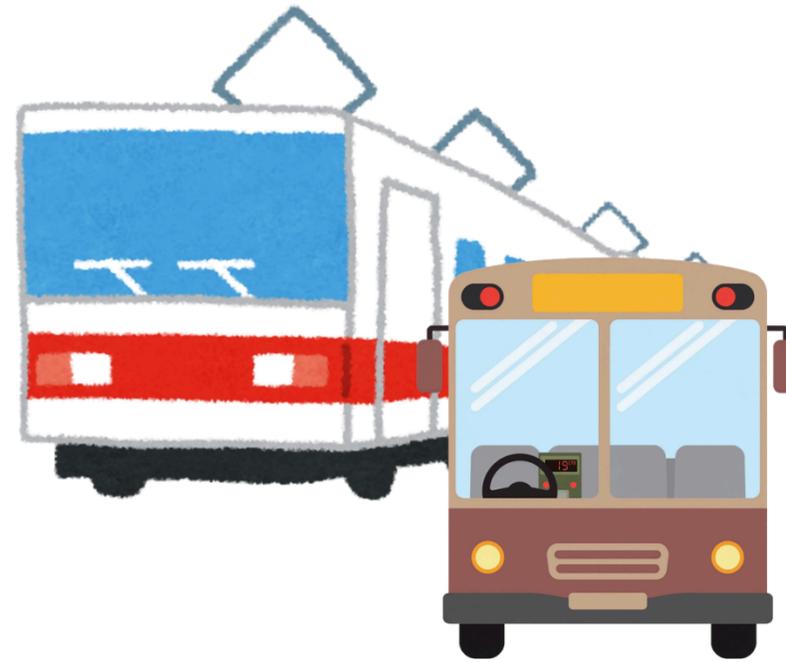
人口減少や自家用車の普及による利用機会の減少等により、確保・維持が困難になりつつある。

”

# 背景と目的



若者人口の減少



公共交通利用の低下



観光が通過型  
になりやすい

▶ 公共交通を『地域体験の入口』に変える!

# 企画コンセプト



公共交通利用者限定  
ポイント制度



年間イベント連動モデル

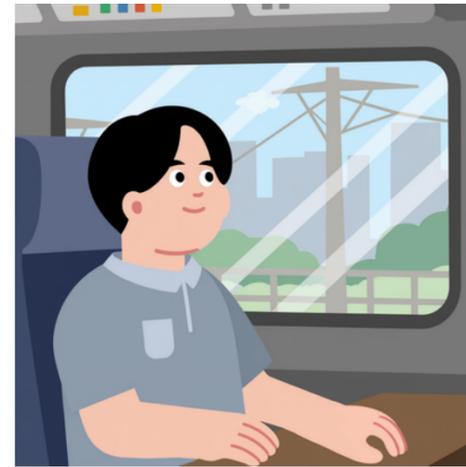


若者のリピーター創出

▶ 移動から体験へ、観光から関係へ

# ターゲット設定

18～25歳の大学生



公共交通に抵抗がない

・地域活動に興味がある



SNS発信できる



理由：

- ・ 時間的余裕がある
- ・ SNS拡散力がある
- ・ 将来の関係人口になる可能性



# ポイント 獲得方法



# ポイントの使い方



カミポイントは一般的なポイントカードのよう  
ですが、観光客向けのために独自の機能があ  
る



上市町の店舗での割引



ポイントで商品の受け取り



限定的なもの



# ■ 上市町の店舗での割引

- 季節やイベントにより、限定的な割引がある
  - りんごの季節だったらりんごの割引
  - 里芋の季節やショウガの商品など
  - 宿泊
- 一年中の割引もある
- 限定的な割引が定期的に変わる



<https://maps.app.goo.gl/YkinUHGtdTbr2A4G7>



<https://nototema.com/column/?p=382>



<https://maps.app.goo.gl/GA9FzRB3HCrtwR9Z8>



<https://maps.app.goo.gl/tKdc3WXN8Fypjn8e9>

## ■ ポイントで商品の受け取り

- ポイントが十分に貯まると無料のものを受け取れる可能
  - 例えば無料のドリンクまたはサービス
  - お土産など



## ■ 限定的なもの

- 限定的な割引
- 限定的な貯まるイベント（2倍か3倍）
  - 特にショッピングセンターに合っている
- 十分にポイントが貯まると上記の倍率が増える



上市ショッピングタウンパル



<https://maps.app.goo.gl/Tv4TtKPTutSqrFRR8>

## ポイントの有効期限

- 観光客にも向いているので、期限は長い方がいい
- 2年か3年など
- 使うと有効期限が延長する



# 季節ごとのイベント展開

# 上市町 国際鉄道フォト大会

春（4～6月） season

「世界のローカル鉄道を、上市町から  
発信する」

- ✓ 世界中の鉄道写真をオンライン募集
- ✓ 最終ノミネート作品を上市町で展示
- ✓ 公共交通を軸に関係人口を創出

夏（7～8月）

国際畑ナイトマーケット

→ 地元野菜からの国際料理・

国際音楽交流イベント



# 上市町、つるぎ アセアン・フレンドシップ・トレイル

秋（10～11月）

# 雪と夜のキャンドル(LED)列車 鉄道

冬 (12~2月)



# 期待される効果

# 公共交通利用増加

2025年データ  
(鉄道 + バス)

669,032 + 45,149

= 714,181人/年

← 約71万人

80万人以下は赤字

10万人足りない



## 提案

🌸 季節イベント (年4回  
× 600人)

600人 × 2 (往復)  
× 4回

= 4,800人

🏠 カミポイント

40人 (往復) × 365日  
= 14,600人

合計4,800人 + 1

4,600人 = 19,400人

約2万人の増加

# 若者来訪者増加





# リピーター創出

イベントだけで終わらせない流れ

イベント



交流 + カミポイント



再訪



継続



# 地域消費拡大

川魚  
小栗料理  
大岩 鋳

# 関係人口形成

高齢者と学生の料理体験  
・ 農家と学生の販売協力  
・ 商店とのコラボ商品

👉 「外の若者 × 地元住民」の協働モデル

# ■ 実施主体モデル



- 商店・農家  
→ 特典提供



- 大学生チーム(インターンシップ)  
→ SNS発信・イベント補助



- 地域おこし協力隊  
→ 調整・運営補助



- 役場(企画課)  
→ 管理・予算調整

カミポイントを通じて公共交通を使い、  
若者と地域住民が継続的に関わる  
年間循環モデル。

ご清聴  
ありがとうございました

